



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 10・25～37
近づき助ける
この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。 ルカ 10・36

目標

助けを求める人々に、よき隣人として近づき助ける者となる。

10月7日（日）

聖書
聖句

ルカ 10・25～37

この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。 36節

「ウワッ！ だれかあそこに倒れている！ 死にそうだなあ……」と思いつつも、道の反対側を通り過ぎて行ったのは、人々のために神様にお祈りする祭司さんでした。神様の神殿でお仕えしていたレビ人がやってきましたが、見て見ぬふりして行ってしまいました。やがて、ユダヤ人から嫌われていたサマリア人がやってきて、「おお、かわいそうに」と、傷の手当てをし、自分の家畜に乗せて、宿屋まで連れて行きました。三人のうち本当の隣り人って誰?!

いの祈り 天のお父様、このよいサマリア人のように、本当の隣り人になって近づいていく子どもになれますように。

10月8日（月）

聖書
聖句

ルカ 10・25～28

先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか。 25節

「質問！」といってたずねる時、色々なたずね方があるそうですね。本当にわかりたい人もあれば、ここの律法学者さんのように、イエス様をためそうと、ちょっといじわるっぽい質問をする人もあるようです。でもイエス様にはそのことがよくわかっておられました。それにしても、人はみんなだれでも死ぬ時が来るのがわかると、まじめにこの質問をしたくなくとも思いませんか？ そして永遠の生命がほしいなど、きっとあなたもそう思うでしょう？

いの祈り 天のお父様、どのようにしたら、永遠の生命が与えられるのか、本気でたずねます。与えられたいと思います。

10月9日（火）

聖書
聖句

ルカ 10・25～28

あなたの答は正しい。そのとおり行いなさい。そうすれば、いのちが得られる。 28節

「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。」「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」。さすが律法学者さんですから、イエス様から、「律法にはなんと書いてあるか？」とたずねられて、この二つの大切なましめがスラスラと口から出てきました。「正解！」とイエス様がおっしゃって、さらに「そのとおり行いなさい」と言われたのでした。知ってることと、それを行うこととはちがうのですね。

いの祈り 天のお父様、あなたの一番大切なましめを心に刻みます。そのみ言葉を行える者となれますよう助けてください。

10月10日(水)

聖書
聖句

ルカ 10・28～29

では、わたしの隣り人とはだれのことですか。 29節

どうも、この律法学者さんは、律法の言葉は頭に入っていて、口からもスラスラ出てきましたが、(そうね、これだけでも偉いなと思いますか!?) きっと、その律法を行ってはいなかったようですね。こういうのを「有言不実行」と言うのかな? それでわざわざ、「じゃあ、イエス様、わたしの隣り人って一体だれのことですか?」って、たずねたのでした! 隣り人が誰なのかわかっていなかったの、隣り人を愛するということができていなかったのです。

いの祈り 天のお父様、わたしも隣り人とはだれなのかはっきりとわかって、その隣り人を愛する子どもになりたく思います。

10月11日(木)

聖書
聖句

ルカ 10・30～31

ひとりの祭司がその道を下ってきたが、この人を見ると、向こう側を通って行った。 31節

イエス様は、「本当の隣り人」とはどういう人かをわからせるために、このたとえ話をしてくださいました。強盗どもにおそわれ、着物をはぎ取られ傷を負って半殺しにされて、道ばたにたおれていた人……。そのそばを通りかかった最初の人は「祭司」です。人々のために祝福を祈り、神様にとりなし祈る人です。それなのに、たおれている人を見たのに、向こう側を通って行ってしまったというのです! こんな人にかかわってなんかいられない、とね。

いの祈り 天のお父様、何ということでしょう。わたしの心にもこんな思いがあるかないか、とても考えさせられてしまいます。

10月12日(金)

聖書
聖句

ルカ 10・32

同様に、レビ人もこの場所にさしかかってきたが、彼を見ると向こう側を通って行った。 32節

さあ、次の人がやってきました。この人はどうでしょうか。この場所にさしかかってきた第二の人は、「レビ人」でした。神様に特別に選ばれて、神殿の中で、大切なきよいご奉仕のために用いられていた人ですよ。アレ!? この人もたおれている人を見ると、前の祭司と全く同じように、向こう側を通って、行ってしまったのでした! これはまた、何ということでしょう。あんな人にさわったりしたら私は汚れてしまう、と思ったのでしょうかね。

いの祈り 天のお父様、神様のお働きをする人なのに、愛も同情も少しもないなんてと、思ってしまう。残念な事です。

10月13日(土)

聖書
聖句

ルカ 10・33～37

「その人に慈悲深い行いをした人です」。そこでイエスは言われた、「あなたも行って同じようにしなさい」。 37節

ところがです! 三番目に通りかかった「サマリヤ人」はちがいました。ユダヤ人からは嫌われていたのに、この人はたおれている人を見て、『気の毒に思い』、そう、可哀想に思い、近寄って手当をし、宿屋に連れていって面倒を見てあげました。必要な費用も全部出してあげたのです! この人こそ真に隣り人になってあげた人でしたね! 実はこの人の心に神様の愛の命、永遠の生命があったのでできたのです。罪をおわびして新しい永遠の命をいただきましょう。

いの祈り 天のお父様、あなたの命をいただいて助けを求める人々に近寄っていける、真の隣り人になれるよう助けてください。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 12・13～21

愚かな金持ち

たといたくさんの物を持っていても、人のいのちは、持ち物にはよらないのである。ルカ 12・15

目標

地上の富ではなく、神に喜ばれる生き方を追い求める。

10月14日（日）

聖書
聖句

ルカ 12・13～21

たといたくさんの物を持っていても、人のいのちは、持ち物にはよらないのである。 15節

「お金さえあれば、わたしのいのちは安全！」とか、「これだけの食料があるのだから、わたしのいのちはずーっと大丈夫」と考える人々は愚かな生き方をしています、と、イエス様が教えて下さいます。「いのち」とは、神様がわたしたちに与えていてくださるものです。「いのち」は神様のみ手の中にあるのですから、おまかせするほかありません。どんなに財産があっても、自分の「いのち」が取り去られてしまうなら、何にもなりませんから。

いの祈り

天のお父様、地上の過ぎゆく富や財産で安心はできません。いのちを支配されるあなたに喜ばれて生きたいです。

10月15日（月）

聖書
聖句

ルカ 12・16～19

たましいよ、おまえには長年分の食糧がたくさんたくわえてある。さあ安心せよ、食べ、飲め、楽しめ。19節

欲深い心を起こさないようにと、イエス様はたとえ話をしてくださいました。ある金持ちの畑が豊作で、この人は心の中で考えました。「どうしよう、この作物を。そうだ今の倉を取りこわして、もっと大きいものを建てて、そこに全部しまいこもう。そして、私の魂に言おう、たましいよ、もう安心だ、食糧はたっぷりたくわえてあるから、安心して食べ、飲め、楽しめ」と。食べ物さえあれば大丈夫と思いませんか？ ただ食べて生きているのではないのですね。

いの祈り

天のお父様、「いのち」についてこの金持ちは少しもわかっていません。物がすべてでないことを覚えたいです。

10月16日（火）

聖書
聖句

ルカ 12・20～21

愚かな者よ、あなたの魂は今夜のうちにも取り去られるであろう。 20節

「たましいよ、さあ、安心せよ、食べ、飲め、楽しめ」と陽気な心で、たましいに言っていると、その時、神様が言われました、「愚かな者よ、あなたの魂は今夜のうちにも取り去られるであろう」と！ な、な、なんとという電撃のみ声（！）でしょう。今夜のうちにも魂が、つまり「いのち」が取り去られたとしたら、倉に納めて、たくわえている物は一体、誰のものになるのでしょうか。自分のことだけ考えないで、「いのち」の与え主、神様を思って生きるべきです。

いの祈り

天のお父様、イエス様のたとえ話がよくわかりました。自分の欲に生きないで、あなたに喜ばれるよう生きます。

10月17日(水)



マタイ 6・19～21

盗人らが押し入って盗み出すことも
ない天に、宝をたくわえなさい。

20節

「大切にしまっておいた宝物のような洋服が虫に食われた!」「高いお金を出して買っていた宝物のような器に、さびがついた!」

「あんなにしっかりとタンスの奥にしまっておいたのに、大事な通帳とかが盗まれてしまった!」なんてことがあなたのお家にありませんでしたか? 地上に宝をたくわえようとすればこんなことになってしまうのですね。だから、こんな心配の全然ない、天に宝をたくわえるのです。どうすることでしょう? 感謝して献金することです。

いの

祈り 天のお父様、天に宝をたくわえていきます。少しずつの献金がどんなにあなたに喜ばれるのかを深く思います。

10月18日(木)



マタイ 6・24

あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。

24節

だれでも、ふたりの主人に仕えることは無理な話です。イエス様は、ここでふたりの主人とは、「神」と「富」ですと言われます。「富」という主人に仕えるとすると、心の中はいつでも、どうしたら富をふやせるかということだけでいいでしょう。金、金、金、物、物、物で、心の中に神様のことを思うスキ間は少しもありません。そのままだとあの愚かな金持のようになってしまいます。私たちはきょう、心底「神」のみに仕えていく決心をしましょう。

いの

祈り 天のお父様、目に見える地上の「富」でなく、目に見えない、与え主であるあなたにのみ心を向け、仕えさせてください。

10月19日(金)



マタイ 6・25～32

命は食物にまさり、からだは着物にまさるではないか。

25節

「心配症」の人、いますか? 「思いわずらい病」です。命のことで心配します。「何を食べようかな、何を飲もうかな」と。命は食物にまさるものです。空の鳥を見なさい。種まいたり、刈り入れしたりしなくても天の父がちゃんと養っておられます。「何を着ようか」と、からだのことで心配しなくていいですよ。あの野の花をあれほどにもきれいに装っていただく神様は、あなたにもそうしてください。からだは着物にもまさるものだからです。

いの

祈り 天のお父様、心配ばかりしなくても、大切な命とからだはしっかりとあなたに守られていることを感謝します。

10月20日(土)



マタイ 6・33～34

まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

33節

そういうわけで、何をまず第一に求めていけばいいかということ、「神の国と神の義」ですね。むずかしいことはありませんよ。小さいわたしたちが「神の国と神の義」を求めるということは、日曜日には、教会学校に行って、神様の言葉を心にたくわえることです。毎日、「子ども聖書日課」で、神様に喜ばれることが何であるのかを知って、その一日をすごすことです。そして、毎日、お祈りをして、神様に喜ばれる一日をすごすことです。

いの

祈り 天のお父様、このようにしてあなたのことを第一にする時、すべての必要なものが与えられる約束を信じます。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 14・25～35

建築と戦いの譬

自分の十字架を負うてわたしについて来るものでなければ、わたしの弟子となることはできない。

ルカ 14・27

目標

キリストの弟子としての生き方を明確にする。

10月21日（日）

聖書
聖句

ルカ 14・25～26

父、母、妻、子、兄弟、姉妹、さらに自分の命までも捨てて、わたしのもとに来るのではありません。 26節

イエス様の行くところには、いつもたくさんの人々がいました。「イエス様の弟子になりたいなあ」と思う人もたくさんいました。そこでイエス様は、イエス様の弟子になるためには、どんな生きかたをしなければならないか、人々にお話をされたのです。

え、家族や自分の命まで捨てなければ弟子になれない？ これは、家族や自分よりも、まずイエス様を愛しなさいということです。イエス様を愛するっていうのはね、イエス様のみことばを何よりも大切にしたいことなんです。だって、イエス様の弟子だものね。

いの祈り 天のお父様、イエス様のみことばに従うことを何よりも大切にしていきます。

10月22日（月）

聖書
聖句

ルカ 14・27

自分の十字架を負うてわたしについて来るものでなければ、わたしの弟子となることはできない。 27節

イエス様が十字架を負って、十字架にかかられたことは知っていますね。でも、イエス様の弟子も負わなければならない十字架があるんだよ、とイエス様は言われます。

わたしたちは、イエス様を伝えるとき、悪口を言われたり、ぜんぜん信じてもらえなかったり、苦しいことがあるかもしれません。でもそれは、「イエス様といっしょに十字架を負っている」ということなのです。つらくても、あきらめないでイエス様をつたえていくこと。これが、イエス様の弟子が負う十字架です。

いの祈り 天のお父様、わたしがイエス様といっしょに十字架を負っていきますように。苦しくてもイエス様を伝えていきますように。

10月23日（火）

聖書
聖句

ルカ 14・28～30

まず、すわってその費用を計算しないだろうか。 28節

イエス様のたとえ話です。大きな家をたてるためには、たくさんのお金がかかります。だから、まず、どのくらいのお金がかかるのか？きちんと計算して準備しますよね。もし準備しないでたて始めたら、お金が足りなくなって、あきら、最後までたてられないで終わっちゃいました…ということになります。

イエス様の弟子として生きていくための、大切な準備があるのです。それは、しっかりみ言葉を聞き、祈ること。この準備をしなかったら、最後までイエス様の弟子として生きていけないのです。

いの祈り 天のお父様、いつもみ言葉を聞き、いの祈り、イエス様の弟子としてつかわされていきますように。

10月24日（水）

聖書
聖句

ルカ 14・31～32

まず座して、こちらの一万^{いちまんにん}人をもつて、二万人^{にまんにん}を率^{ひき}いて向^むかって来^きる敵^{てき}に對抗^{たいこう}できるかどうか、考^{かんが}えて見^みないだろう^{ぞう}か。 31節

つぎは、戦^{たたか}いのた^{たか}とえ話^{ばなし}です。戦^{たたか}うときは、勝^かつことができるか？ まずよ～く考^{かんが}えるもの。勝^かつのがむずかしいとわかつたら、戦^{たたか}わないで仲^{なか}なおりでできるように真^{しん}剣^{けん}に考^{かんが}えます。考^{かんが}えないで戦^{たたか}ったら、やっつけられてしまひます。

イエス様の弟子^{でし}には、戦^{たたか}いがあるのです。イエス様から引^ひきはなす、たくさん^{たくさん}のゆうわくや罪^{つみ}との戦^{たたか}い^{たたか}です。イエス様の弟子^{でし}は、その戦^{たたか}い^{たたか}がくる覚^{かく}悟^ごをして、負^まけてしまわないうように真^{しん}剣^{けん}に考^{かんが}えて祈^{いの}るのです。

いの祈^{いの}り 天^{てん}のお父^{とう}様^{さま}、イエス様の弟子^{でし}として、罪^{つみ}のゆうわく^{ゆうわく}と戦^{たたか}う覚^{かく}悟^ごをします。負^まけないように、どうかわたくしをお守^{まも}りください。

10月25日（木）

聖書
聖句

ルカ 14・33

自分の財産^{じぶんのざいさん}をことごとく捨^すて切^きるものでなくては、わたしの弟子^{でし}となることはできない。 33節

イエス様の弟子^{でし}になるための、準^{じゅん}備^びと覚^{かく}悟^ご！さらにイエス様は、「自分の財産^{じぶんのざいさん}をぜんぶ捨^すてる人^{ひと}」がイエス様の弟子^{でし}だと言^いわれます。

これはね、神^{かみ}様^{さま}をいちばん大^{たい}切^{せつ}にして、神^{かみ}様^{さま}だけ^{だけ}を信^{しん}頼^{らい}しなさいということ^{こと}です。神^{かみ}様^{さま}よりお金^{かね}や物^{もの}が大^{たい}切^{せつ}なら、財^{ざい}産^{さん}があなた^{あなた}の神^{かみ}様^{さま}になりま^ます。それともうひとつ、あなた^{あなた}がもつお金^{かね}、物^{もの}もぜんぶ！神^{かみ}様^{さま}がよろこばれる使^{つか}いかた^{いかた}を祈^{いの}つて使^{つか}うけっしん^{しん}をしまし^しょう。自分^{じぶん}の幸^{しあ}せ^わだけ^{だけ}を考^{かんが}えて財^{ざい}産^{さん}を使^{つか}う人^{ひと}は、財^{ざい}産^{さん}を捨^すててい^いない人^{ひと}です。イエス様の弟子^{でし}になれ^なないのです。

いの祈^{いの}り 天^{てん}のお父^{とう}様^{さま}、あなた^{あなた}をいちばんに^{しん}信^{しん}頼^{らい}します。わたしがもっているものは、神^{かみ}様^{さま}がよろこばれること^{こと}に使^{つか}います！

10月26日（金）

聖書
聖句

ルカ 14・34～35

塩^{しお}もききめがなくな^なったら、何^{なに}によつて塩^{しお}味^{あじ}が取り^ともどされよう^{よう}か。 34節

イエス様のみ言^{こと}葉^はにしたがうより、大^{たい}切^{せつ}なことがあつたり。イエス様^{さま}を信^{しん}じていることを、友^{とも}だち^{だち}に知^しられたく^くないな、とかくしたり。それは塩^{しお}味^{あじ}のし^しない、塩^{しお}だ^だとわ^わか^から^らない塩^{しお}だ、とイエス様^{さま}は言^いわれま^ます。イエス様^{さま}を信^{しん}じてることを言^いわ^わない、した^{した}がわ^わないのは、塩^{しお}味^{あじ}がし^しない塩^{しお}、塩^{しお}の役^{やく}割^{わり}をは^はた^たして^{して}い^いないの^のと^と同^{おな}じ。

わたしはイエス様^{さま}を信^{しん}じていま^{いま}す、とはつ^つき^きり言^いえ^える人^{ひと}、イエス様^{さま}のみ言^{こと}葉^はをいちばん大^{たい}切^{せつ}にして生^いきてい^いく人^{ひと}。それがイエス様の弟子^{でし}の役^{やく}割^{わり}をは^はた^たして^{して}い^いる、ほん^{ほん}とう^{とう}の弟子^{でし}です。

いの祈^{いの}り 天^{てん}のお父^{とう}様^{さま}、イエス様のこ^ことを^をは^はつ^つき^きりつた^たえて、イエス様^{さま}にしたが^がいま^{いま}す。わたしをほん^{ほん}とう^{とう}の弟子^{でし}とな^なら^らせ^せて^てく^くだ^ださい。

10月27日（土）

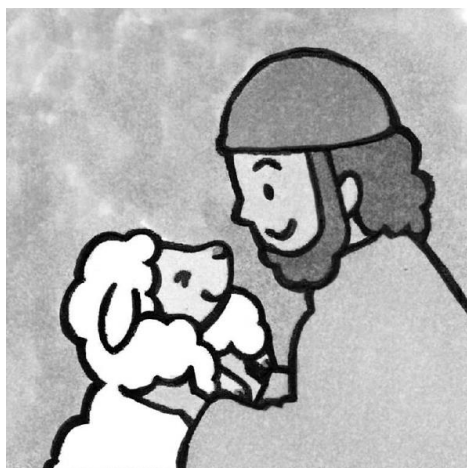
聖書
聖句

ルカ 18・29～30

必^{かな}ずこの時^じ代^{だい}ではその幾^{いく}倍^{ばい}も^もを受^うけ、また、きたるべき世^よでは永^{えい}遠^{えん}の生^{せい}命^{めい}を受^うけるのである。 30節

イエス様の弟子^{でし}としてイエス様^{さま}にしたが^がった人^{ひと}には、かならず！ ごほ^{ごほ}う^うび^びがあるん^んです。イエス様^{さま}は、あなた^{あなた}の戦^{たたか}い^いや苦^{くる}しみ^みを、ち^ちゃ^ゃん^んと^と見^みて^てい^いて^てく^くだ^ださい^{ます}。苦^{くる}し^しん^んだ^だこ^こと^とより、も^もつ^つと^と大^おき^きな^なよ^よろ^ろこ^こび^びを^をく^くだ^ださい^{ます}。ど^どん^んな^なご^ごほ^ほう^うび^びか^かは^はお^お楽^{らく}し^しみ^み！ な^なに^によ^より^りも^も、イエス様の弟子^{でし}には永^{えい}遠^{えん}のい^いの^のち^ちが^が与^{あた}え^えら^られる^るの^のです。死^しも苦^{くる}しみ^みも^もな^なく、永^{えい}遠^{えん}に神^{かみ}様^{さま}の^もと^とで^で生^いきる^るの^のです。なん^{なん}という^うす^すば^ばら^らしい^いご^ごほ^ほう^うび^びで^でし^しょう。「イエス様の弟子^{でし}でほん^{ほん}とう^{とう}によ^よか^かつ^つた^た！」と^と言^いう^うこ^こが^がき^きま^ます。かな^{かな}ら^らず。

いの祈^{いの}り 天^{てん}のお父^{とう}様^{さま}、す^すば^ばら^らしい^いご^ごほ^ほう^うび^びに感^{かん}謝^{しゃ}で^でい^いっぱ^ぱい^いです。天^{てん}国^{こく}にい^いく^くま^まで^でイエス様の弟子^{でし}として歩^{あゆ}ま^ませ^せて^てく^くだ^ださい。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 15・1～7

迷子の羊

いなくなった一匹を見つかるまでは捜し歩かないであろうか。

ルカ 15・4

目標

一人を追ひ求めて救おうとされる神の御心を知って生きる。

10月28日（日）

聖書
聖句

ルカ 15・1

さて、取税人や罪人たちが皆、イエスの話を聞こうとして近寄ってきた。
1節

取税人や罪人たちは、みんなから嫌われていました。取税人は税金を高くとりたてるし、罪人とよばれる人々は、パリサイ人や律法学者の教えをまもらない。だから、わるい罪人たちとは関わらないほうがいい、そう思われていました。

ところが、取税人や罪人たちがゾロゾロ、イエス様の話をきこうとして近づいてきました。それは、イエス様が「わたしのところに来なさい」と歓迎されたからです。罪人をよろこんでむかえてくださるイエス様。イエス様は、「あなたはいいよ。あなたはダメ」なんて言いません。人でできめたりしません。

いの祈り 天のお父様、イエス様が大きな愛でわたしを迎えてくださることを感謝します。

10月29日（月）

聖書
聖句

ルカ 15・1～2

「この人は罪人たちを迎えて一緒に食事をしている」と言った。

2節

罪人をむかえるイエス様を、パリサイ人と律法学者はだまって見ていませんでした。罪人をむかえて食事をするなんて、とんでもないことだ！と言っています。ここでは、罪人たちのことじゃなくてイエス様の悪口を言っています。

でも、悪口なんかイエス様は気にしません。何を言われようが、イエス様の愛がひつような人をいちばん大切にされたのです。わたしたちも悪口にめげないで、イエス様の愛を伝えたいですね。イエス様は勇気をくれますよ！

いの祈り 天のお父様、わたしが悪口に負けないで、イエス様の愛をひつようとする人につたえられるように、勇気をあたえてください。

10月30日（火）

聖書
聖句

ルカ 15・3～4

いなくなった一匹を見つかるまでは捜し歩かないであろうか。 4節

イエス様が取税人や罪人たちをどんなに愛しておられるか。イエス様はパリサイ人たちに、たとえ話を話されました。

百匹の羊をかっていて、もし一匹いなくなってしまうたら、九十九匹をおいて、その一匹を見つかるまでさがし歩くはず！とイエス様は言われました。ほかにたくさんいるし、一匹くらい、いなくてもいいのでは…と思う人もいる？ この羊飼いは、イエス様。取税人や罪人たちの一人も失いたくない、救いたい！イエス様というお方は、たった一人を救うために命をかけるお方です。そう、あなたを救うためにも。

いの祈り 天のお父様、わたし一人を救うため、命をかけてくださるイエス様の愛に、胸がいっぱいです。

10月31日(水)

聖書
聖句

ルカ 15・3～5

そして見つけたら、喜んでそれを
自分の肩に寄せ、 5節

ついに見つけた、一匹の羊！羊飼いは、大よ
ろこびで羊を自分の肩にのせます。なんで羊
を肩にのせたの…って考えたことある？うれ
しくてつい？羊って重いのにわざわざ？

実はこの羊、羊飼いかから遠～くはなれて迷子
になって、自分の力で歩けないくらい疲れはて
ていたのです。自分勝手に羊飼いかからはなれて
いったのに、羊飼いはさがしました。自分もへ
トヘトなのに、よろこんで羊を肩にのせる羊飼
い。イエス様からはなれて罪の道で迷子になっ
ていたあなたを、イエス様がどんな思いでさが
してくださったかを、どうか知ってください。

いの
祈り 天のお父様、イエス様の愛がわかりました。
罪の道で迷子になったわたしをさがしてく
れたイエス様、ほんとうに感謝します！

11月1日(木)

聖書
聖句

ルカ 15・3～6

「わたしと一緒に喜んでください。
いなくなった羊を見つめましたか
ら」と言うであろう。 6節

羊が見つかってよかった、めでたし、めでた
し。…では終わらない羊飼いです。友だちや近所
の人たちに「いっしょに喜んでください、いな
くなくなった羊を見つめましたから！」と家に呼ん
だのです。お客さんを家に呼んだということは、
「羊が見つかりましたパーティー」を開いたと
いうこと。どれだけよろこんでるんですか！

あなたがイエス様のもとに帰るとき、イエス
様はこんなにもよろこばれるのです。あなたの
よろこびより、イエス様はもっともっと、よろ
こんでおられるのです。

いの
祈り 天のお父様、イエス様がわたしのことを、
こんなによろこんでくださるなんて、とて
も幸せです。感謝します！

11月2日(金)

聖書
聖句

ルカ 15・6

「わたしと一緒に喜んでください。い
なくなった羊を見つめましたから」
と言うであろう。 6節

「一緒に喜んでください」という言葉は、
パリサイ人、律法学者たちにも向けられている
言葉です。彼らは、取税人や罪人は神様から見
はなされている人だと思っていました。でも、
まったくぎやくだし。罪人が悔いあらため
て、神様のところに帰るのが、神様のみこころ。
わるい罪からはなれて神様を信じるなら、こん
なにうれしいことはないはずです。

イエス様は、パリサイ人たちにも、このよろ
こびをわかってほしかったのです。いっしょに
よろこんでほしかったのです。

いの
祈り 天のお父様、イエス様のよろこびは、わた
しのよろこびです。イエス様といっしょに
よろこぶ人にならせてください。

11月3日(土)

聖書
聖句

ルカ 15・1～7

罪人がひとりでも悔い改めるなら、
悔改めを必要としない九十九人
の正しい人のためにもまさる大きい
よろこびが、天にあるであろう。 7節

たった一人が悔いあらためると、なんと天国
ではみ使いたちまで大よろこびするんですって
(10節も読もう)。天国では、一人の人が悔いあ
らためるより、うれしいことはないのです。そ
れがイエス様にとってなによりうれしいことな
ので、天国中がいっしょに大よろこび！

つぎつぎと天国でよろこびがおこされるよう
に、わたしたちも、一人をイエス様のもとにつ
れていきたい…。一人を心から愛していきたい
ですね。イエス様、あなたの愛をください！

いの
祈り 天のお父様、わたしがイエス様のように
一人を心から愛して、イエス様のもとにみ
ちびくことができますように。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 15・11～24

神に立ち返る

このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。

目標

ルカ 15・24

神のもとに真の幸いがあることを知り、神に立ち返る者となる。

11月4日（日）

聖書
聖句

ルカ 15・11～24

このむすこが死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから。 24節

「お父さん！ わたしがいただける財産をください」と、ある日突然、二人の息子の中の次男がそう言い、たくさんのお金を持って家を出て行きました。お父さんは毎日のように、きょうかきょうかと帰りを待ちました。その息子は財産を使い果たし、ボロボロになり命を失いながら、でも心から悔改めて父のもとに帰ってきたのです。父は大喜びで迎え、みんな赦して、手放しで受け入れたのです。父なる神様のお姿です。罪をおわびして神様のもとに帰ろう！

祈り

天のお父様、あなたのもとにのみ本当の安心、喜び、幸せがあることが、このお話でよくわかります。

11月5日（月）

聖書
聖句

ルカ 15・11～12

父よ、あなたの財産のうちでわたしがいただく分をください。 12節

ふつう財産をゆずってもらうのは、お父さんが亡くなったあとなのですが……。弟息子はこんな無理な注文をお父さんにしました。やさしいお父さんはちゃんと二人の息子たちに分けてあげたのです。弟息子は、自分の思うとおりに、行きたい所へ行き、やりたい放題にできることが自由だし、幸せだと思っていたにちがいません。神様を信じない時には、みんなそう思うのですね。あなたもそう思いますか？

祈り

天のお父様、あなたから離れていては、何をしても、幸せでも満足でもないことをよくよくわからせてください。

11月6日（火）

聖書
聖句

ルカ 15・13～14

何もかも浪費してしまったのち、その地方にひどいきんがあったので、彼は食べることに窮しはじめた。 14節

たくさんのお金をもって、弟息子は家から遠い所へ行きました。「さあ、自由だぞー！」って。お金のことを「お足」というくらい、お金には足があつて、あつという間に逃げて行くのです！ 悪い遊びのとりこになって、たちまちお金は消えてしまいました。おまけにその地方にひどいきんがあつて、彼は食べることに困るほどになりました。さあ、大変。頭の中は真っ白、顔は真っ青、胃袋はカラッポです。

祈り

天のお父様、自分の欲のとりこになった時、本当にどうしようもない所に追いやられることがわかります。

11月7日(水)

聖書
聖句

ルカ 15・15～16

彼は、豚の食べるいなご豆で腹を満たしたいと思うほどであったが、何もくれる人はなかった。 16節

何か働いて、食べ物を手に入れないと、ある住民のところをたずねたら、畑に連れて行かれて、「ここで豚を飼うんだぞ」と言われたのです。「えーっ、汚い動物、臭い動物だ」と思いましたし、おまけに、ますますお腹はペコペコです。背中のお腹の皮とお腹の皮がくっつくほど！「豚のえさでも……!?」と思うほどでしたが、何もくれる人はいません。死ぬほどお腹がすくなると、とてもとても残酷ですよ。

祈り

天のお父様、昔、父のもとにいた時の弟息子とはとても思えないみじめな姿です。あなたを離れた人の姿です。

11月8日(木)

聖書
聖句

ルカ 15・17～19

立って、父のところへ帰って、こう言おう、父よ、わたしは天に対しても、あなたにむかって、罪を犯しました。 18節

「そこで彼は本心に立ちかえって」ここが一番大切なところです！彼はこれまで、うわべしか見えなかったのです。自分の心もうわべしか見え、自分の心もごまかし、おどらされていたのです。しかし、「ここで飢えて死のうとしていた」と本当の自分がハッキリ見えて、やっとこさ、ハッと、我に返った、本心に立ちかえれたのです。それはつまり、神様のもとに、父のもとに立ち返ることにつながっていきました。

祈り

天のお父様、彼の心がくると180度、自分中心から神様の方に向きを変えられたことがわかり、感動します。

11月9日(金)

聖書
聖句

ルカ 15・20～23

まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思っ走り寄り、その首をだいて接吻した。 20節

「そこで立って、父のところへ出かけた」。ちゃんと、悔改めができていた証拠ですね。彼はもう、徹底的に心がくだかれ、低くされ、息子の資格はありません。雇人のひとりとして働きますとさえ言う覚悟だったのです。ところが、ところがです！父はその日息子を発見！きつと服はボロボロ、頭はボウボウ、やせこけた彼に走り寄り抱きしめ首に接吻したのです！さあ、着物だ、指輪だ、はきものだ、子牛の料理だ！って。

祈り

天のお父様、オドロクばかりの父の愛！今、あなたも、あなたのもとに立ち返る者を待ち構えておられるのですね。

11月10日(土)

聖書
聖句

ルカ 15・24

それから祝宴がはじまった。 24節

「死んでいたと思っていた息子が生き返ったんだ！いなくなっていた息子が見つかったんだ！」父の喜びで興奮している様子がすごく伝わってきます。財産を使い果たしてしまったなんて、遊びほうけていたなんて、もう、全く忘れ去られて、とにかく、息子が目の前にいるということが、最高の喜び。こんなにまでして迎えられた息子は、「ああ、お父さんのもとこそ最高に幸せなところ」と確信したでしょう。

祈り

天のお父様、何とうれしい祝宴だったことでしょう。今もあなたのもとに立ち返る時、天でも祝宴なのですね。



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 18・1～8
不義な裁判官
イエスは失望せずに常に祈るべきことを、人々に譬で教えられた。
ルカ 18・1

目標

失望しないで祈り続ける者となる。

11月11日(日)

聖書
聖句

ルカ 18・7
イエスは失望せずに常に祈るべきことを、人々に譬で教えられた。
1節

お祈りはどんなときにしますか？ 神様はいつだって、あなたを愛し見守るお方。歩いてても、あそんでても、食べてても、眠ってても。だけど、わたしたちは神様のことを時々思い出すだけで、たまーに「あ、神様のこと信じてたんだっけ」って思ったりするんだよね。

イエス様はね、今日はあなたに「あきらめないうで祈り続けよう」と声をかけておられるよ。

あなたの人生の一步一步を支えてくださる神様をもっと信頼して、期待して、お祈りをしていこうね。

いの祈り

天のお父様、わたしの人生を守ってくださるのはあなたです。信じ続け祈り続ける心をください。

11月12日(月)

聖書
聖句

ルカ 18・35
ある町に、神を恐れず、人を人とも思わぬ裁判官がいた。
2節

すべてのことを決めるのは自分で、助けも救いも必要ないし、世界でいちばん自分がえらい。だれに悪く言われようがへっちゃら。この裁判官はきっとそんな人なんだね。

こんな、まったく神様とは関係なさそうな人だから、神様だってこんな人知らんぷりだよ？って思っちゃうよね。

でも、ふしぎなことに、好き勝手にやっているような人でも、神様の手はちゃんと届いていて、コントロールされているのです。

神様の知恵はなによりも大きいんだよ！

いの祈り

天のお父様、あなたの知恵はなによりもすばらしいです。あなたの手の届かない人、物はないと信じます。

11月13日(火)

聖書
聖句

ルカ 18・36～38
「どうぞ、わたしを訴える者をさばいて、わたしを守ってください」と願いつづけた。
3節

結婚したあと夫が亡くなった人を、やもめと言います。この時代、やもめはだれも守ってくれない弱い立場でした。

わたしたちも、自分に力がないとき、自信をなくしてしまうよね。でも、神様は、力があるとかないとかで、人を決めたりしないんだ。

正しいことのために祈りしているとき、信仰のために祈りしているとき、神様が答えてくださらないことはぜったいないと信じよう。

神様は特別な答えを、あなたに用意してくださるからね！

いの祈り

天のお父様、あなたが必ず、特別なこたえを用意してくださると信じ、祈っていきます。

11月14日（水）

聖書
聖句

ルカ 18・4～5

このやもめがわたしに面倒をかけるから、彼女のためになる裁判をしてやろう。 5節

人の態度と、神様の態度には大きな大きな差があるなあと、思いませんか！？

めんどくさいなあ、うるさいなあ、しょうがないなあ…これが、人間がお願いされているときの心なんだよね。

でもね、神様はこんなことは絶対思わないよ。「わたしに祈ってごらん。どんな苦しみがあるの、どんな問題があるの、どんな悲しみやいたみがあつたの？ 隠さず話してごらん」と両手を広げて待っていてくださるのです。だから、どんなお祈りでも、かくさずに言い表しているんだね！ 神様、ありがとう！

いの
祈り

天のお父様、どんなことでもお祈りできる幸せを感謝します。

11月15日（木）

聖書
聖句

ルカ 18・5

絶えずやってきてわたしを悩ますことがなくなるだろう。 5節

今まで一回だってめいわくをかけたことがない人だって、一つのことを頼まれたらこんなふうにするのです。

もし、神様が、あなたのためにイエス様を十字架にかけると愛していることを知らずにいたら、わたしたちもこの裁判官のようになるんだろうね。

イエス様が命をささげてくれるほどに愛してくれたことを知っているあなたは、まわりの人のために、どんな人生を歩みたいですか？

「しかたなく」でなくて「喜んで」「自分から進んで」人の役に立っていききたいよね！

いの
祈り

天のお父様、あなたの愛を知っていることを、行いで表していけますように。

11月16日（金）

聖書
聖句

ルカ 18・6～7

まして神は、日夜叫び求める選民のために、正しいさばきをしてくださらずに長い間 そのままにしておかれることがあるうか。 7節

困ったなあ、というとき、目に見える人や物に頼りたくなるよね。でも、ちよつとまって。

あなたのことをだれよりも愛し、あなたを見守るお方、だれよりも近くにいてあなたを助けたと思っているお方がいること。

神様はだれよりも正しく、何よりも力のあるお方だって、なんで思い出せないんだろう。

今日のお言葉を思い出して、「神様、助けてください」といちばんにお祈りしようね。

いの
祈り

天のお父様、わたしを助けてくださるはあなたであること、いつも思い出せますように。

11月17日（土）

聖書
聖句

ルカ 18・8

しかし、人の子が来るとき、地上に信仰が見られるであろうか。 8節

いつまでお祈りし続ければいいんだろう…。どこがゴールがわからないとき、だれだって疲れたり、とちゅうでやめたいと思うよね。でもね、聖書は「必ずゴールがある」と言います。それは、もう一度イエス様にお会いするとき。

人の人生には終わりが必ず来るのと同じように、この世界にも終わりの日がやってきます。そのときまで、しっかりと信仰の目を覚まし、どんな悲しみや苦しみに、イエス様が答えを出してくださる日がくることを、信じ続けるあなたでいてください！

いの
祈り

天のお父様、やがてイエス様にお会いするその日まで、信仰の目を覚まして、信じ続けることができますように。

GOD



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 18・9～14
パリサイ人と取税人
神様、罪人のわたしをおゆるし
ください。 ルカ 18・13

目標

砕かれた心で神の赦しを受け
取る者となる。

11月18日(日)

聖書
聖句

ルカ 18・13
神様、罪人のわたしをおゆるし
ください。 13節

「神様、ごめんなさい」とお祈りしたこと、
ありますか？ それは自分が悪いということ、
神様に赦してもらわないといけないことが、分
かっているからですね。

もし神様がいないければ、人は「悪い」という
気持ちを持たず「だれも見えていないんだから
自分勝手に生きて、自分だけがいつも得をすれ
ばいい」きっとそうなるでしょう。

でもね、神様はおられて、「ごめんなさい」
と言える人の心も人生も、正しくできるお方、
そのような人にたくさんの祝福をくださるお
方です。

いの
祈り

天のお父様、わたしの心と人生を正し
く導いてください。

11月19日(月)

聖書
聖句

ルカ 18・9
自分を義人だと自任して他人を見
下げている人たちに対して、イエス
はまたこの譬をお話になった。9節

「義人」というのは「正しい人」のこと。

でも人が正しいかどうかなんてどうやって
決めるの？ なんと、イエス様のまわりには「わ
たしは正しい人間です！」と言いはる人がたく
さんいたのです。おまけに「まわりの人は正し
くない！」と思っているというのです。

でも、「人の正しさ」というのは、じつは人が
決められるものではありません。どんな人も
心には罪のシミがあるからです。

罪のないイエス様と聖い神様だけが、お決め
になること、わすれないでいようね。

いの
祈り

天のお父様、正しいかどうか決めるのは、
自分ではないことをわすれないで過ご
せますように。

11月20日(火)

聖書
聖句

ルカ 18・10
ひとりパリサイ人であり、もうひ
とりは取税人であった。 10節

いかにもりっぱで良い人と、いかにも悪いこ
とばかりやってそうなイヤな人。

さあ、どっちがどっちかな？ そんなふう
にわたしたちは、見ただけで決めつけやすいのです。

でもね、どんな服を着て、どんな家に住んで、
何を持っていて、優等生かどうか、人生でい
ばんたいせつなのは、そんなことじゃない。

「あなたの心、中身はどうなの？」とイエス
様は教えてくれているよ。

見た目や行いだけに気を取られていると、
本当にたいせつなことがわからなくなるよ！

いの
祈り

天のお父様、見た目でなく、心をたい
せつにして生きる人生を歩めますよう
に。

11月21日(水)

聖書
聖句

ルカ 18・11

ほかの人たちのような貪欲な者、不正な者、姦淫をする者ではなく、また、この取税人のような人間でもないことを感謝します。 11節

これは「自分は正しい」と思っているパリサイ人のお祈りです。お祈りと言っても、神様に喜ばれないものがあります。

ひとつは、神様ではなく人に言い聞かせるためのお祈り。人に言い聞かせているんだから、もうお祈りじゃないよね。

もうひとつは、人と比べるお祈り。さらに悪いのは、比べておいて、自分のほうが良い人間だと言っていること。

お祈りは、あなたと神様の一対一ですものだって、おぼえておこうね！

いの
祈り

天のお父様、あなただけに届くお祈りができますように。

11月22日(木)

聖書
聖句

ルカ 18・12

一週に二度断食しており、全収入の十分の一をささげています。12節

あなたはどんな気持ちで、献金をしたり、教会のお手伝いをしていますか？ ほめてもらうため？ じまんするため？ 目立つため？

このお祈りは、神様が喜ばれないお祈りの三つ目で、自分がやっていることを「どうだすごいだろ！」とじまんするお祈りだね。

捧げものも、教会のお手伝いも、お祈りもすばらしいよね。でもそれは、神様が与えてくださった恵みに「神様ありがとう！」とこたえることなんだと、聖書は教えているよ。

「神様ありがとう！」の気持ちで、いろいろなことができるあなたでいてください。

いの
祈り

天のお父様、あなたの愛が心いっぱいになって、喜んで感謝をささげられますように。

11月23日(金)

聖書
聖句

ルカ 18・13

取税人は遠く離れて立ち、目を天にむけようとししないで、胸を打ちながら言った。 13節

「とりあえず謝っておけば赦してもらえる…」って思うこと、あるよね？ あなたの心の中のことは人からは見えないけど、神様からはぜんぶ、お見通しなんだよ。

ウソやごまかし、悪い思いを神様に見られたとき、自分の心がどんなに汚く、神様の前で生きるのにふさわしくないかがわかるはず。だから、取税人は、神様に目を上げることも近づくこともできなかったんだね。

その気持ちであなたに「近づいてほしい」と神様は願っておられるのです。

いの
祈り

天のお父様、こんなわたしにも近づいてほしいと願っていてくださることを感謝します。

11月24日(土)

聖書
聖句

ルカ 18・14

自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるであろう。 14節

「わたしは正しく罪なんか無い」という心を「自分を高くする」と言い、「わたしはあなたにふさわしくない罪人」と言う心を「自分を低くする」と、イエス様は言っているよ。

そして、罪を認め、イエス様がわたしの代わりに罪の罰を受けられた救い主と信じるとき、神様の赦しと神様の正しさが与えられて、永遠の命というプレゼントまで用意されるんだ。

まさに低い者が高くされる、だね！ 神様、ありがとう！ イエス様、ありがとう！

いの
祈り

天のお父様、こんなわたしに、永遠の命まで与えようと計画してくださったご愛を感謝します。

11月28日(水)

聖書
聖句

ルカ 17・15～16

イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリア人であった。

16節

おや？ 九人の方々、何か忘れてはいませんか？ と言いたいところです。十人の中のたったひとり、しかもユダヤ人でなく、ユダヤ人から嫌われていたサマリア人だけが、イエス様のきよめられてきた足もとにひれ伏して感謝したのでした。大声で、「ハレルヤー！ 神様、あなたのいやしを感謝します！ あなたを心よりほめたたえます」と叫びながらね。わたしたちも、もしかしたらよく忘れてしまっているかもね。

いのちの祈り 天のお父様、あなたから祝福されたり、祈りにこたえられた時、あなたに感謝することを忘れないようにお守りください。

11月29日(木)

聖書
聖句

ルカ 17・17～18

きよめられたのは、十人ではなかったか。ほかの九人は、どこにいるのか。

17節

イエス様も、不思議に思われたのですね。たしか、十人いたはず、しかもみんなきよめられたはず、ほかの九人は、一体どこに行ってしまったのか？ うれしい、うれしいで、きよめてくださったイエス様のことはすっかり忘れ、感謝をおささげしに、イエス様のもとに帰ってくることも全く頭になかったようです。やってきたのはたった一人の他国人！ わたしたちもこの九人のような失敗をしませんように。いつも主に感謝！

いのちの祈り 天のお父様、あなたからよいものをたくさんいただきっぱなしで知らん顔でなく、いつも一つ一つ感謝できますように！

11月30日(金)

聖書
聖句

ルカ 17・19

立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ。

19節

イエス様は、この一人のサマリア人に、心をこめて言われました。「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ」とね！ え？ イエス様が、十人を全くきよめてくださったのでしょうか？ そのとおりです。でも十人の人たちはイエス様を信じて、言われるとおりにしました。その信仰をイエス様はとても喜ばれました。そして感謝をささげる信仰をさらに喜ばれました。このみ言葉をいただいたのは、この人一人でした。

いのちの祈り 天のお父様、あなたの喜ばれる信仰がよくわかりました。きちんと感謝をおさげする信仰を持ちたいです。

12月1日(土)

聖書
聖句

詩篇 100・1～5

感謝しつつ、その門に入り、ほめたたえつつ、その大庭に入れ。主に感謝し、そのみ名をほめまつれ。

4節

この月も神様に感謝して、守られてきました。この詩篇は感謝の礼拝の詩篇です。わたしたちは神様に造られました。わたしたちは神様のものです。神様は偉大な羊飼いのようです。わたしたちは神様の大きな牧場の中で、守られ、育てられ、養われている羊のような者たちです。たくさんの恵みを神様はわたしたちに与えてくださって、身も心も魂も満ち足らせてくださいます。ですからハレルヤ！

いのちの祈り 天のお父様、いつまでも続く、あなたの恵みといつくしみとまこととのゆえに、心いっぱいあなたをほめたたえます。

アドベント



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 1・26～38

お言葉どおり

わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように。

ルカ 1・38

目標

神様のご計画に従って従順に生きる者となる。

12月2日（日）

聖書
聖句

ルカ 1・26～38

わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように。

38節

クリスマスがどんどん近づいてきてワクワクですね。子どものクリスマス会はいつですか？たくさんのお友だちが本当のクリスマスをお祝いできますように！クリスマスは、「この人」がおられたので実現しました。「この人」とは？そう「マリヤ」です！高校生くらいの年代だったようです。若いけれど素晴らしい、純粋な信仰の人でした。ある日突然、御使ガブリエルがやってきて、「救い主の母に」と告げます。「お言葉どおり」と答えたのです。

いのちの祈り

天のお父様、今週、このマリヤの純粋な信仰と従順を学んで、わたしもマリヤにならって祝福の道を進みたいです。

12月3日（月）

聖書
聖句

ルカ 1・26～28

恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます。

28節

ユダヤの都エルサレムから遠く北にあるガリラヤ、そこは「異邦人のガリラヤ」（イザヤ 9・1）などに見下される地方のナザレという田舎町に住むマリヤのもとに、神からつかわされた御使ガブリエルがやってきました。神様のみわざは、ひっそりと静かに、でも確実になされるのです。そのあいさつの言葉は、「恵まれた女よ、おめでとう。主があなたと共におられます」というものでした。マリヤはいつも、深く主とお交わりをしていた人なのです。

いのちの祈り

天のお父様、そんな田舎の世の中に全く知られていない人に、神様の選びの「白羽の矢」が立ったことは驚きです。

12月4日（火）

聖書
聖句

ルカ 1・29

この言葉にマリヤはひどく胸騒ぎがして、このあいさつはなんの事であろうかと、思いめぐらしていた。

29節

あなたは人の言うことをしっかりと聞ける子どもですか？全然聞こうとしない子、聞き流してしまう子、右の耳から入って左の耳にぬけてしまう子といろいろいるでしょう。耳から聞いてちゃんと心にしまえる子どもになってください。マリヤはとてもよい耳と共に、よい心の持ち主でした。突然の御使ガブリエルの言葉（人間じゃなく！）に、とても胸がドキドキして、「いったいなんのあいさつ？」と心の中で、思いめぐらしていたのです。よい心ですね。

いのちの祈り

天のお父様、思いめぐらすというのがマリヤのよい特徴でした。わたしもその思いめぐらすのをやってみます。

12月5日（水）

聖書
聖句

ルカ 1・30～33

見よ、あなたはみごもって男の子を生むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。 31節

静かに思いめぐらしているマリヤに御使は言いました。「恐がることはありません、マリヤ、あなたは神から恵みをいただいています。あなたは男の子を産みますから、その子の名をイエスとつけなさい。その子は大いなる者となり、いと高き者の子となえられます。主なる神は彼に父ダビデの王座を与え、彼はとこしえにヤコブの家を支配し、それは限りなく続きます」と。マリヤは、まだ心をドキドキさせながら、でもしっかり聞き取ったのです。

いのちの祈り 天のお父様、マリヤが、人間の言葉でなく、御使ガブリエルの言葉を、しっかり聞いたことを不思議に思います。

12月6日（木）

聖書
聖句

ルカ 1・34～37

神には、なんでもできないことはありません。 37節

「どうして、そんな事があり得ましょうか。わたしにはまだ夫がありませんのに」。そう、マリヤはヨセフのいいなずけ(婚約者)だったので、「子を産む」と言われても、「そんな事はあり得ないでしょう」と答えたのです。するとまた驚くような御使の返事です。「聖霊によってみごもるのです。だから、生れてくる子どもは聖なる者で、神の子となえられます。あのエリサベツでさえ子を宿して六ヵ月です。神にはなんでもできないことはありません」と！

いのちの祈り 天のお父様、あなたのご計画は、本当に人間の常識を超えた、スゴイものであることを、改めて覚えさせられます。

12月7日（金）

聖書
聖句

ルカ 1・38

わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように。 38節

御使の言葉をじっと聞くマリヤの心の中はどうだったでしょうね？「ああわたして、待ち望んできた救い主のお母さんになるんだわ。でもヨセフはとても悩み苦しむかしら。周囲の人々も、『何!?』って白い眼で見めるかしら。いえ、それより姦淫の女だって、殺されるかも…」短い時にあれこれ思ったことでしょう。でも、「一番大切で、お従いしていくべきなのは、『神様のお言葉』。わたしは神様の奴隷女です。おっしゃるとおりにこの身にしてください」と答えたのです。

いのちの祈り 天のお父様、マリヤの命がけの従順と、献身があって、めでたくクリスマスとなったことに大きく感動します。

12月8日（土）

聖書
聖句

ルカ 1・39～45

主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう。 45節

マリヤは大急ぎで山里のユダの町へとんで行きました。ザカリヤの家です。信仰の友エリサベツにあいさつに行ったのです。あなたも教会と一緒に行くお友だち、神様やイエス様のことをお話できるお友だちがいますか？マリヤがエリサベツにあいさつすると、エリサベツのお腹の中の子どもが喜び、おどったのですって！エリサベツは聖霊に満たされて、主の母となったマリヤを祝福しました。本当に「神様の言われたことはきっとその通りになる」と信じた、さいわいな婦人たちでした。

いのちの祈り 天のお父様、今もみ言葉をもってわたしに語ってください感謝します。その通りになるといつも信じていきます。

Ⅱ アドベント



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 1・39～43

マリヤの讃歌

わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救主なる神をたたえます。
ルカ 18・46～47

目標

真実な神の愛を覚え、神をほめたたえる者となる。

12月9日(日)

聖書
聖句

ルカ 18・46～47

わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救主なる神をたたえます

46～47節

教会での礼拝や賛美のとき「今日のお昼ごはん何かなあ」「あとで何してあそぼう」「あ～つまんない」なんて、心が神様に向いていないこと、あるんじゃない？

でもね、マリヤさんは心も体も全部使って「神様はすばらしい！」と賛美したんだ。

神様はどこか遠くの知らない人でも、あなた以外の誰かが信じるためでもなく、ご自分をどのようなお方が知らせて「あなた」を愛し、あなたの人生をすばらしいものでいっぱいになりたいと願われる神様だよ！

口先だけでなく全身で、神様を礼拝しよう！

いのちの祈り

天のお父様、心と体全部で、あなたを礼拝し、賛美します！

12月10日(月)

聖書
聖句

ルカ 18・39～42

エリサベツは聖霊に満たされ、声高く叫んで言った。
42節

聖霊にはね、特別な気持ちや行動を起こさせる力があるんだ。聖霊が働くと、神様のことが自分のことのようにわかって、喜びがあふれ出し、伝えずにいられない！叫ばずにいられないんだね！マリヤが急いでエリサベツのところに行ったのも、エリサベツが叫んだのも、聖霊がそうさせたんだってわかるでしょう？まだ生まれてもない、本当かどうかともわからないイエス様を信じることは、聖霊の助けなしにはできなかったはずだからね！

わたしたちが見ないで「信じる」ことができるのも、聖霊が助けてくれているからなんだよ！聖霊の力と助けを感じませんか！？

いのちの祈り

天のお父様、わたしにも毎日聖霊の助けと力があることを感謝します。

12月11日(火)

聖書
聖句

ルカ 18・42～45

主の母上がわたしのところにきてくださるとは、なんという光栄でしょう。
43節

このときのエリサベツとマリヤは、おばあちゃんと孫くらいの年の差があったんだ。

でも、エリサベツはマリヤの話聞いたとき、ぜんぜん偉そうにしないで、マリヤのことを「わたしの救い主のお母さん」と呼んで、もったいないくらいうれしかったんだね。

聖霊が心に住む人は、年齢や職業や見た目でものごとを理解せず、信仰の目で理解でき、どんな人にも尊敬の気持ちで話せるんだね。こういうのを「謙遜」っていうんだよ。

いのちの祈り

天のお父様、聖霊による「謙遜」をいただいて、人と接するときも信仰の目で見ることができるよう。

12月12日（水）



ルカ 18・48～50

そのあわれみは、代々限りなく
主をかしこみ恐れる者に及びます。
50節

神様のあわれみはどんな人に注がれると言っていますか？ どこか特別な人？ いいえ。「神様を信じ、心から敬う人」だね。マリヤは田舎に住む一人の女性だったけど、神様のあわれみを体験できたね。それは「わたしは主のはしめです」と従う信仰があったから！

「こんな小さなわたしにも神様のあわれみが注がれている」と、神様の愛の大きさが分かるとき、神様を愛する愛もどんどん大きくなって、マリヤのように、言葉や行いで神様のすばらしさを表せるようになるんだね！ すごいね！

いの
祈り

天のお父様、あなたを愛する愛がどんどんわたしの心の中にあふれ、言葉も行いも変わりますように。

12月13日（木）



ルカ 18・51～52

主はみ腕をもって力をふるい、
51節

「偉そうにしている人」「力で人を押さえつける人」はいつの時代にもいるよね。そんな人に何もできない、怖い、悲しいと思うこと、あなたにもあるんじゃないかな？

でもね、「何よりも強い神様の力」を知っているのといないのとではぜんぜん結果がちがう！ 神様は、神様を信じる人が弱っているとき、苦しんでいるとき、ほおっておかれるお方ではありません。

それどころか、その「み腕をもって力をふるって」くださると約束されているよ！ 神様の力にもっとたようろう！

いの
祈り

天のお父様、わたしは弱くても、あなたは何よりも強いお方です。この日もその腕でお守りください。

12月14日（金）



ルカ 18・52～53

卑しい者を引き上げ、飢えている者を良いもので飽かせ、富んでいる者を空腹のまま帰らせなさい。
52～53節

なんでこんな人がいるの…なんでこんなことが起きるの…と人や出来事を見て、悲しくガッカリすることってあるよね。

でも、天国のルールは、地球の不公平なルールとはちがうんだ。貧しいか金持ちか、病気が健康か、地位があるかないか、そんなことは関係ない。神様の目には「神様を信じて従うかどうか」だけが問題なんだよね。

神様を知っているあなたも、天国のルールでものごとを見られるといいね！

いの
祈り

天のお父様、天国のルールを使ってものごとを見ることができるよう。

12月15日（土）



ルカ 18・54～56

わたしたちの父祖アブラハムとその子孫とをとこしえにあわれむと約束なさったとおりに。
55節

お友だちや家族のひとと「約束」をすることがあります。ちゃんと約束を守れたり、理由があって守れなかったり、忘れちゃったり、いろいろあるよね！

でもね、地球を創る前から「祝福の約束」を忘れなかった神様は、アブラハムから 2000年後のイエス様の時に、さらに 2000年後のわたしたちにまで「信じる」ことによって「あなたを祝福するよ」と約束し続けておられるんだ。

時代も国もこえて、祝福の約束は広がっているんだね！ だれかに祝福、広めたいね！

いの
祈り

天のお父様、わたしも、あなたの祝福をいただいていることを感謝します。この祝福をだれかに広められますように。

Ⅲアドベント



聖書
テーマ
暗唱聖句
目標

ルカ 2・1～7

キリストの誕生の場所

客間には彼らのいる余地がなかったからである。ルカ 2・7
心を開き、キリストを心と生涯にお迎えする。

12月16日（日）

聖書
聖句

ルカ 2・1～7

客間には彼らのいる余地がなかったからである。 7節

あなたが「オギャー！」と生れた所はどこでしたか？ もちろん自分で覚えている人なんて誰もいないでしょう。お母さんから聞いて、「あの病院のベッドよ」ってわかるわけですよ。さてさて、神のひとり子、救い主イエス様がお生れになった所はどこだったでしょう。「神様の大切なひとり子だから、どこかすごくきれいな所にお生れかな？」と考えますか？そこは家畜たちがごはんを食べる飼料おけの中でしたよ。「エーッ！なぜ？」と思ってしまいますね。

いの祈り

天のお父様、イエス様がお生れになった場所についても、きっとあなたの深いご計画があったにちがいないと思います。

12月17日（月）

聖書
聖句

イザヤ 9・1～2

後には海に至る道、ヨルダンの向こうの地、異邦人のガリラヤに光栄を与えられる。 1節

あなたのお父さんやお母さんの生れ故郷はどこでしょう？今あなたが住んでいる所ではないとしたら、お休みに出かけたりできる楽しい所なのかな？ガリラヤ、ここはイエス様の父ヨセフと母マリヤたちが住み、暮らしていた所でした。ガリラヤのナザレという所です。ガリラヤは異邦の偶像を拝むフェニキヤと隣同士だったので「異邦人のガリラヤ」などと見下げられました。でもそこで主の両親が暮らし、やがてイエス様も生活し、活躍された所でした。

いの祈り

天のお父様、あなたが選ばれた、イエス様の両親のいた地を思います。人には見下されても神は光栄を与えられます。

12月18日（火）

聖書
聖句

ミカ 5・1～4

しかしベツレヘム・エフラタよ、あなたはユダの氏族のうちで小さい者だが、イスラエルを治める者があなたのうちからわたしのために出る。 2節

「ズバリ！イエス様がお生れになる場所はベツレヘムです！」と預言したのがミカという預言者でした。ミカはイザヤと同じころ預言したので、イエス様がお生れになる七〇〇年も前に、その預言をしました。ユダの氏族のうちで小さい者を神様はお選びになりました。その中から、イスラエルを治める者、つまり救い主が誕生するということです。「イエス様の両親はナザレなのに、なぜベツレヘムなの？」と思いますね。

いの祈り

天のお父様、預言者は本当にスゴイ人たちです。何百年も先のことを、間違いなく言い当ててしまうのですから。

12月19日(水)

聖書
聖句

ルカ 2・1～3

そのころ、全世界の人口調査をせよとの勅令が、皇帝アウグストから出た。
1節

歴史の勉強、好きですか？歴史を英語で言うとはとヒストリー(HISTORY)と言うのです。それはまた、ヒズ・ストーリー(HIS STORY)だと言います。「彼の歴史」、つまりイエス様の歴史だって！イエス様は歴史の中の人、また、歴史を支配しておられる神様なのです。全世界の人口調査をするようにとの命令がローマ皇帝アウグストから出されました。皇帝の命令には、みんな従わなければなりません。さあ大変。登録のために人々は動き出しました。

祈り 天のお父様、小さいわたしの一生の歴史も、国の大きな歴史も、みなあなたがみ手の中に治めていることを知りました。

12月20日(木)

聖書
聖句

ルカ 2・4～5

ヨセフもダビデの家系であり、またその血統であったので、ガリラヤの町ナザレを出て、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。
4節

な一るほど、ここでわかりましたね。なぜイエス様がベツレヘムでお生れになられたのか！ヨセフは、ダビデ王様の家系でした。そしてまたその血統だったのです。人口調査のためには、人々はそれぞれ登録をするために、自分の町へ帰って行きました。そこで、住んでいたガリラヤのナザレを出発し、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行きました。いいなづけの妻マリヤも一緒に登録をするために行きました。

祈り 天のお父様、あなたのなさることはなんて見事なのでしょう。あなたによる預言は絶対はずれることはありません。

12月21日(金)

聖書
聖句

ルカ 2・6～9

彼らがベツレヘムに滞在している間に、マリヤは月が満ちて、初子を産み、布にくるんで、飼葉おけの中に寝かせた。
6～7節

それにしても、ベツレヘムはベツレヘムでも、家畜小屋の飼葉おけの中に神のひとり子、救い主イエス様が、布にくるまれて、寝かせられたのです！ベツレヘムにはその時、あまりに大勢の人々が登録のためにやってきていたみたいです。長い旅で疲れたヨセフとマリヤ。そのマリヤはもう今にも子どもが生れるかと思うような様子だったのでしょう。やっと与えられたお宿が、牛や馬のいる家畜小屋でした！

祈り 天のお父様、何という驚きでしょう。神のこみ子の誕生の場所！どのような深い意味があるのか教えてください。

12月22日(土)

聖書
聖句

ルカ 2・7

客間には彼らのいる余地がなかったからである。
7節

今週のみ言葉です。神のみ子、救い主イエス様をお迎えし、お宿しできるちゃんとした客間がありませんでした。実は、わたしたちの心は、あの飼葉おけのようではないですか？飼葉おけは小さくて、固くて、冷たくて(石のものもありました)、臭くて、汚れていて…。イエス様はそんなわたしたちの心にも喜んでお宿りくださり、清くして、栄光で輝かせてくださいます。わたしたちは罪をおわびし、心の客間に救い主を心からお迎えいたしましょう！

祈り 天のお父様、きょうわたしの心のまん中にイエス様をお迎えして、本当のクリスマスをお祝いしたいです。

クリスマス



聖書
テーマ
暗唱聖句

ルカ 2・8～20

喜びの知らせ

きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。

ルカ 2・11

目標

喜びの知らせであるキリスト誕生を共に喜ぶ。

12月23日（日）

聖書
聖句

ルカ 2・8～20

きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。

11節

2018年のクリスマス、おめでとうございます！ 洗礼を受けるお友だちがいたら、ハレルヤ！ おめでとう！

イエス様のお誕生の初めてのクリスマスは約2千年前だけど、それからずっとイエス様お誕生の喜びの知らせは鳴りひびき続けます。初めてのグッド・ニュース、ハッピー・ニュース、ジョイフル・ニュースは、天から、主の御使から伝えられました。今は、わたしたちが伝えていく時です！

いのちの祈り 天のお父様、約束どおり、ダビデの町ベツレヘムにお生れくださった救い主誕生の喜びの知らせを感謝します。

12月24日（月）

聖書
聖句

ルカ 2・8～9

さて、この地方で羊飼たちが夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた。

8節

《救い主誕生！》ユダヤの民が、何百年も待ち望んで、待ちに待っていたできごと。このスペシャル・ニュースを神様は一体誰に一番に伝えたいと思いますか?! 王様でも皇帝でもありません。祭司や律法学者でもありません。貧しい羊飼たちでした。律法も守れないといって社会からつまはじきにされていた羊飼たちでした。彼らは自分たちの仕事を忠実にやっていた。羊たちのために夜、野宿までして番をしていた人たちでした。何という特権！

いのちの祈り 天のお父様、羊飼いたちは、思いもかけない主の栄光の輝きに非常に恐れましたが、何という夜だったでしょう！

12月25日（火）

聖書
聖句

ルカ 2・10～11

恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。

10節

主の栄光に照らされて、あまりのまぶしさに、羊飼いたちは、「こ、これは、な、なにごと?」と、とっても恐れました。無理ありません。未だかつてなかったことです。御使は驚くばかりの知らせを伝えてくれました。「すべての民に与えられる大きな喜び——救い主がお生れになった」と！ これはすべての民に与えられるものです。大きな喜びの知らせです。救い主誕生の知らせです。羊飼いたちは目をパチパチ、耳を一瞬疑ったかもしれません。

いのちの祈り 天のお父様、喜びの知らせはいくつもありませんでしたが、救い主誕生の知らせほど大きな喜びは全宇宙最大のものです。

12月26日（水）

聖書
聖句

ルカ 2・12

あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。それが、あなたがたに与えられるしるしである。 12節

このニュースは、イエス様がお生れになってすぐに伝えられましたね。羊飼いたちはイエス様のお生れになった所から近い所にいたのです。救い主のしるし、それは「幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてある」というしるしでした。羊飼いたちは、「へえ、何て不思議なしるしだ？」と思ったのでしょうか？家畜小屋の飼葉おけの中だって、それなら貧しいおれたちも近づけるぞと思ったのでしょうか。

いの祈り 天のお父様、羊飼いたちに知らせたこと、救い主のしるしのこと、考えれば考えるほどあなたらしいと思えます。

12月27日（木）

聖書
聖句

ルカ 2・13～14

いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように。 14節

すると見る見るうちに、夜空いっぱい、いえ、もう暗い空はすっかりおおい尽くされて、数え切れないほどの天の軍勢たちが現れたではありませんか。そして、御使と一緒に、神様をさんびして言いました。

「栄光、神に。平和、地に」とね！ うわあ、どんなにまぶしいばかりだったことか、どんなにきれいな声がひびいたことか、どんなにかきれいなメロディーとハーモニーだったことか！ 羊飼いさんたちは幸せの絶頂でしたね。

いの祈り 天のお父様、この御使と天の軍勢たちのさんびこそ、あなたを心に迎えたわたしたちのさんびと祈りです。

12月28日（金）

聖書
聖句

ルカ 2・15～16

そして急いで行って、マリヤとヨセフ、また飼葉おけに寝かしてある幼な子を探しあてた。 16節

一体、どれくらいの時間のできごとだったのでしょうか？ 御使いたちがみんなサーッと天に帰って行くと——そう、あたりはもとのように夜の闇でした。でも、羊飼いさんたちの心の中には、希望のともしばい！「さあ、行って、主がお知らせ下さった出来事をみてこよう！」「そうだ、救い主を探しに行こう！」と、彼らは急いで行ったのです。広いベツレヘムの町で探すのって、大変だったかな？『救い主探し』！ついに彼らは飼葉おけの救い主を見つけました。

いの祈り 天のお父様、羊飼いさんたちのように、素直な心であなたのみ言葉を信じ受け入れ、救い主と日々出会いたいです。

12月29日（土）

聖書
聖句

ルカ 2・17～20

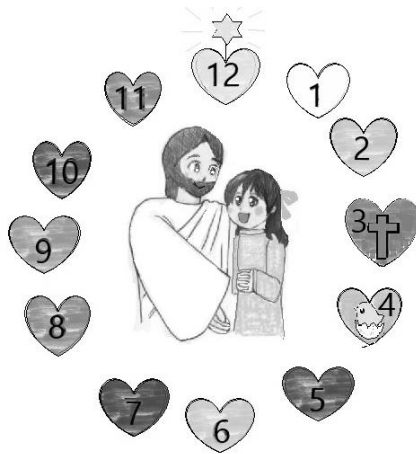
羊飼いたちは、見聞きしたことが何もかも自分たちに語られたとおりであったので、神をあがめ、またさんびしながら帰って行った。 20節

ダビデの町、布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてある幼な子——これが救い主のしるしですと告げられた羊飼いさんたちは、本当に、聞いたとおりのことを見て、心から神様をあがめました。そして、心の中から、口から、さんびがあふれたのです。ついに待ちに待っていた救い主が来られた！全世界の人の救い主だ！大きな喜びの知らせだ！

この知らせを羊飼いさんたちは人々に伝えたのです。史上最大の知らせを。

いの祈り 天のお父様、救い主イエス様を感謝します。わたしも心から信じて、喜んでまわりの人々に伝えていきます。

年末感謝



聖書
テーマ
暗唱聖句

I テサロニケ 5・16～18
万事感謝
すべての事について、感謝し
なさい。 I テサロニケ 5・18
一年の歩みを振り返り、その
すべてを神に感謝する。

目標

12月30日（日）

聖書
聖句

I テサロニケ 5・16～18
すべての事について、感謝しなさい。
18節

2018年の最後の日曜日となりました！そして明日で、2018年も終わってしまいます。「早っ！」と思いますか？ この1年のすべてを神様に心から感謝しましょう。「すべてのことについて」ですから、もしかして、「え？あのいやだったことも？」と思い出すことがありますか？「キリスト・イエスにあって」ということは、イエス様を信じているわたしたちには全部感謝できる、感謝にかかわっていきますということです。

いのちの祈り 天のお父様、イエス様につながってあれば、本当にすべてのことについて感謝できるのでとても素晴らしいです。

12月31日（月）

聖書
聖句

詩篇136・1～3
主に感謝せよ、主は恵みふかく、その
いつくしみはとこしえに絶えること
がない。 1節

ああ、いよいよ、今日で2018年も終わります。教会学校、何回行けたかな。「わたし、皆勤よ！」というおともだち、おめでとう！ハレルヤ！今週、つまり、年末年始は、イスラエルの人々が集まるとよく互に声を合わせて言った詩篇136篇を見ることにしましょう。26節全部に、『感謝せよ』とあります！どんなことを感謝したのでしょうか。まずは主なる神に感謝！なぜなら主は恵みふかく、いつくしみは永遠だから。

いのちの祈り 天のお父様、わたしも1月から12月までのいろいろなことを思い出し、一つ一つ感謝する時をもつことにします。

1月1日（火）

聖書
聖句

詩篇136・4～6
ただひとり大いなるくすしきみわさを
なされる者に感謝せよ、そのいつくしみ
はとこしえに絶えることがない。 4節

「オオーッ！神様って、ほんとにすごいことをしてくださるんだな」って思うようなことがありましたか？イスラエルの人々の目には、神様はいつも、「ただひとり大いなるくすしきみわさをなされるお方」と写っていたのです。今日は2019年、ハッピー・ニュー・イヤー！どんな年になるのかしら？神様どうぞこの一年も小さいわたしをお導きください。大いなるくすしきみわさをなされるあなたに信頼しますと祈りましょう。

いのちの祈り 天のお父様、今年もただひとり大いなるくすしきみわさをなさってくださいあなたがいくださり感謝します。

1月2日（水）

聖書
聖句

詩篇136・7～9

大いなる光を造られた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。 7節

偉大な天地の創造者なる神様を覚えて、感謝ですね！ 初めに、「光あれ！」と神様がみ声を出されると「すると光があった」（創世記1・3）とあります。四日目に、神様は昼のためには太陽と、夜のためには月とキラキラ星をたくさん造られました。それらの光は何て私たちに暖かさや輝き、励ましと慰め、そして希望を与えてくれることなのでしょう！ 今までも、今も、これからも神様が保っていてくださるから、不思議！

いのちの祈り 天のお父様、大いなる光を、太陽月星を造って、今も支えていてくださるあなたに、心からの感謝をささげます。

1月3日（木）

聖書
聖句

詩篇136・10～15

紅海を二つに分けられた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。 13節

このお話、聞いたことがありますか？ もちろん、聖書で読んだことがありますか？ イスラエルの人々にとって、超重要なできごとでした。430年もの長いエジプトでの奴隷生活から、ついに「脱出」できた時の、神様のスゴイみわざでした。紅海という海を二つに分けて、イスラエルにこわい地を行かせたのです！ これはわたしたちがイエスを信じて救われることのひな型です。去年受洗した人おめでとう！

いのちの祈り 天のお父様、新しい2019年もこんなスゴイ奇跡をしてくださったあなたと共にいてくださるので心強いです。

1月4日（金）

聖書
聖句

詩篇136・16～22

その民を導いて荒野を通らせられた者に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。 16節

イスラエルの人たちが荒野を旅したのは40年でした。長くて、苦しい旅でしたね。その中でいろんなことがあり、リーダーのモーセもアロンもとっても大変でした。水がない、肉がほしい、と不平や不満やつぶやきや反逆の連続でしたよ。でもモーセやアロンのお祈りに神様はこたえて、民を導いてくださったのです。わたしたちの毎日も、「荒野だー！」と思う時があるかもしれませんが、導いてくださる神様に感謝して歩みましょう。

いのちの祈り 天のお父様、本当にあなたのいつくしみ、愛と忍耐は大きく、広く、高いものです。どんなに感謝しても足りません。

1月5日（土）

聖書
聖句

詩篇136・23～26

天の神に感謝せよ、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。 26節

「われらが卑しかった時にわれらをみこころにとめられた者に感謝せよ」（23）とあります。自分中心で、わがまま、罪を犯していた、そんな小さな恥ずかしいわたしたちに、神様がみこころをとめてくださって、選んでくださって、愛して救ってくださったことを心一杯、感謝しましょう。天におられ、いつも一人ひとりを見守っていてくださる、真の神様を知り、信じていくことができたことは何という感謝でしょう！

いのちの祈り 天のお父様、感謝に満たされて、主の新しい年、2019年をあなたと共にスタートできてとてもうれしいです。